



1991年5月3日生 牡 黒鹿毛  
 父ブライアンズタイム  
 母バシフィカス(父Northern Dancer)  
 馬主/山路秀則氏  
 調教師/大久保正陽(栗東)  
 生産牧場/早田牧場新冠支場  
 通算成績/21戦12勝  
 総取得賞金/10億2691万6000円  
 主な勝ち鞍/94有馬記念(G I)  
 94菊花賞(G I)  
 94日本ダービー(G I)  
 94皐月賞(G I)  
 93朝日杯3歳S(G I)  
 95・96阪神大賞典(G II)  
 94スプリングS(G II)  
 94共同通信杯4歳S(G III)  
 馬名の由来/冠名+父名の一部

NARITA BRIAN's  
*Impressive Scenes*

F.Nakao



怪物の片鱗を見せる

1993年 朝日杯3歳S(G I)

デビュー7戦目。勝ち負けを繰り返しながら挑んだG I。直線で先頭を捉えると、そこからは一人旅。後に怪物と呼ばれる片鱗をみせた

H.Suga



3馬身半差の次は5馬身差

1994年 日本ダービー(G I)

3馬身半差で皐月賞を制し二冠目へ。3コーナー過ぎから喰らうような手応えで先頭を捉え、直線は大外から次元の違う脚で5馬身差の圧勝

K.Yamamoto



渾身の走りでつかんだ最後の勝利

1996年 阪神大賞典(G II)

前年の有馬記念で後塵を拝したマヤノトップガンとの再戦。3コーナーから続いたマッチレースをアタマ差制し、1年ぶりの勝利を飾った

第 8 位

19482 P

前回6位

2位DOWN

# ナリタブライアン

絶対的な力を誇った平成の怪物

年代別・性別ランキング

40~50代、特に男性から支持が集まる

- 10代……34位
- 20代……24位
- 30代……13位
- 40代……6位
- 50代……7位
- 60代……11位
- 70代……10位
- 男性……8位
- 女性……12位

Voter's Voice

当時は小学生でしたが、その圧倒的なパフォーマンスは今でも記憶に残っています(30代・男性)●歴代の三冠馬のなかで、三冠レースのインパクトと言えばこの馬が一番(50代・男性)●チーターのような走法で全盛期は負ける姿が想像出来ない(30代・男性)●30年近く競馬を観てきた上でも別格。死ぬまで推します(30代・男性)●南井克巳騎手とのコンビは圧倒的な強さを誇っていた(70代・男性)

伯楽の流儀の下で誕生した  
キャリア豊富な三冠馬

昨年1月に亡くなられた大久保正陽調教師は「レースを使いながら馬をつくる」やり方で数々の個性的な活躍馬を育て上げた。2歳時だけで7戦を消化。11戦目にダービーを勝ち、13戦目の菊花賞で三冠制覇を達成したナリタブライアンもその1頭である。

2歳夏のデビュー後はしばらく、勝ったり負けたりを繰り返したものの、トレッドマークとなった白いシャドーロールを着用してからまさに一変。向かうところ敵なしの勢いで連勝街道を突き進んだ。夏負けの試練も乗り越え、トライアル(2着)を、ひと叩きして臨んだ菊花賞は7馬身差の圧勝。有馬記念も完勝し、4歳初戦の阪神大賞典

もワンサイドの勝利を飾った。

だが、その後に判明した故障(右股関節炎)により、未来は暗転する。秋の天皇賞で復帰、翌春の阪神大賞典ではマヤノトップガンとの熾烈な一騎打ちに競り勝って底力を示したが、大人数ない、とまで感じられた全盛時の一方的な強さはいかに蘇らなかった。

そんな故障後も、大久保調教師は自分の流儀を貫いて真の復活への道を模索した。明らかに追い不足と映る調整過程で臨んだ秋の天皇賞(12着)は、レースを使いながら仕上げていく、手法の表れ。折り合いに苦労して2着に敗れた春の天皇賞の次戦には高松宮杯(現在の高松宮記念)を選び、人々を驚かせた。

当然、世間からは「これほどの名馬に相応しい使い方ではない」といった批判の大合唱が沸き上がった。そうした周囲の声は気にならなかったのか。後年に取材した折、尋ねてみたことがある。すると彼は笑って答えた。

「そんなものは馬耳東風さ」

自身の信念を貫いた昔気質のトレーナーのもと、独特といえる道を歩んだナリタブライアン。これだけキャリア豊富な三冠馬は他になく、今後も現れないだろうが、故障前にアピールした『最大瞬間風速』が、どんな名馬と比べてもヒケを取らなかったことは強調しておきたい。